

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

平2-210523

⑫ Int. Cl.<sup>5</sup>

G 06 F 3/033  
3/02

識別記号

3 4 0 B  
3 1 0 K

庁内整理番号

7010-5B  
6798-5B

⑬ 公開 平成2年(1990)8月21日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

⑭ 発明の名称 マウス

⑮ 特 願 平1-31338

⑯ 出 願 平1(1989)2月10日

⑰ 発 明 者 友 田 孝 夫 東京都青梅市末広町2丁目9番地 株式会社東芝青梅工場内

⑱ 出 願 人 株 式 会 社 東 芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

⑲ 代 理 人 弁 理 士 鈴 江 武 彦 外3名

明 細 書

1. 発明の名称

マウス

2. 特許請求の範囲

(1) 小型電子機器に着脱自在にして一体に設けられたことを特徴とするマウス。

(2) プリント機能を有することを特徴とする請求項(1)記載のマウス。

(3) イメージリーダ機能を有することを特徴とする請求項(1)記載のマウス。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の目的〕

〔産業上の利用分野〕

本発明は、コンピュータやワードプロセッサ等の電子機器の入力に用いられるマウスに関する。

〔従来の技術〕

近年、ラップトップコンピュータやさらに小型で携帯が容易な小型電子機器が多数製品化されている。この種の電子機器では、キーボードによる入力の他にマウスを接続し、このマウスから入力

を行なうことが可能なものもあり、特にメニュー内の実行可能なコマンド群の中から特定のコマンドを選択したり、フリーハンドの描画を行なうような場合などによく用いられる。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、上記マウスは上記小型電子機器本体に対して外部接続するものであり、あくまでも小型電子機器とは別体である。したがって、小型電子機器自体は携帯性に優れているにもかかわらず、マウスを別に携帯しなければならないという不具合を生じる。

本発明は上記のような実情に鑑みてなされたもので、携帯可能な小型電子機器に一体化させることが可能なマウスを提供することを目的とする。

〔発明の構成〕

〔課題を解決するための手段及び作用〕

本発明は、小型電子機器の一部、例えばキーボードに着脱自在にしてマウスを一体に設けるようにし、さらにこのマウスの下面にプリント機能やイメージリーダ機能を有するようにしたもので